

東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2019

「健やかに生きる ～大学は知の宝庫～」

第1回 10/2 (水) 13:30～15:00 報告

ことばによらないコミュニケーション ～日本語と英語の場合～

講師 下内充 (本学教授)

於：図書館大セミナー室

◆◆◆◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*

令和元年度第1回公開講座(受講者25名)が10月2日に開催されました。管理栄養学科の下内充先生による「ことばによらないコミュニケーション～日本語と英語の場合～」と題された講演は、グローバル化した現代社会の日常において、“知っておくとためになる”ヒントに満ちた興味深いお話でした。印象深いメッセージをいくつかご紹介します。

文化圏が違くとジェスチャーなどことばによらないコミュニケーションの形が異なります。身ぶり、手ぶりなど、コミュニケーションには様々な要素が入っていて、ことばによらないコミュニケーションのなかにことばが組み込まれているといってもよいでしょう。英語ではノンバーバル・コミュニケーション、漢語で言えば非言語意思疎通というところですが、日本語では「伝え合い」ということになります。

実際のところ「伝え合い」の情報量の7割を非言語が占め、言語は3割程度ですので、ことばによらないコミュニケーションが重要なわけです。バードウォッチングのようにマン・ウォッチング(人間観察)してみると、服装や姿勢、ジェスチャー次第で交渉がうまく進むか否かが決まるというお話にも納得がきました。さらに、髪の色、肌の色も情報の一部であり、対人距離や、部屋のどこに座るか等も、相手を理解するのに役立ちます。

お話は、非言語コミュニケーションは非常に重要であるということ、種類・機能・伝達意図についての説明から始まり、そのあとは「日本でよく見る身ぶり」、「英語圏でよく見る身ぶり」を27枚のスライドを見ながら、通じない日本の身ぶり・誤解を招く身ぶり、英米人の典型的な身ぶりなど、ユーモアを交えながら解説していただきました。例えば、日本人の“お願いします”という掌をあわせたポーズは、英語圏の人たちは“祈り”と解釈するそうです。“おいで、おいで”と手招きする場合、日本人は掌を下にしますが、欧米では掌を上向きにしますし、位置も異なります。ちなみに招き猫も日本製とアメリカ製では、ポーズが異なります。また、思わず、“熱い!”と耳たぶを触る仕草は、ブラジルでは“有難う”の意になるとのことです。最近では、居酒屋で「お勘定をお願いします」と言う時に両手の指で「×」を作る仕草をよく見かけますが、欧米ではチェックの意味になりません。欧米では、手を高く掲げ、親指と人差し指で輪を作り、いわゆる「OK」の合図の仕

草が「お会計をお願いします」となるそうです。文化の違いの大きさを実感しました。

これから多くの外国人の方たちが日本を訪れることでしょう。お迎えする際にも、私たちが外国に行く場合にも、このような違いを知っていれば相手に不愉快な思いをさせたり、トラブルに巻き込まれたりすることを回避できます。暮らしに役立つヒントをたくさんいただきました。

【講座の様子】

